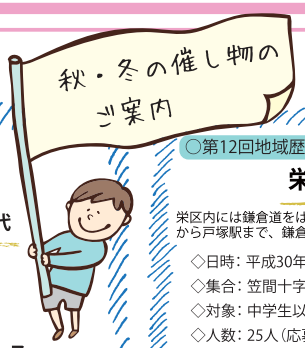
## 秋・冬の催し物のご案内



### event 1

○平成30年度　横浜の遺跡展

**横浜のお台場**
**―発掘に見るコウモリ台場とその時代**

近年の神奈川台場の発掘調査成果や文献資料などからこれまでに分かったことを展示し紹介します。

**会期：11月20日（火）～12月16日（日）**
**会場：横浜市中央図書館1階展示スペース**

<展示物>　神奈川台場出土遺物(陶器、ガラス、耐火煉瓦)
神奈川台場写真、絵図

観覧料：無料
主　催：(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
横浜市中央図書館

**「横浜の遺跡展」関連講演会**
※横浜市中央図書館主催の連続講座ライブラリースクールにて行います。

「解き明かせ！横浜のお台場
―発掘に見るコウモリ台場とその時代」

神奈川台場は横浜開港後、横浜港防備のため、1年足らずで築造された軍事施設です。発掘調査によってわかってきた台場の構造や、台場築造の時代背景となる開港前後の横浜をめぐる情勢について、考古学と文献資料から解説します。

◇日　　時：12月9日（日）13時30分～16時
◇会　　場：横浜市中央図書館ホール（地下１階）
◇講 演 者：浪形早季子（(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター）
吉崎雅規（横浜開港資料館）
◇費　　用：無料
◇申　　込：11月13日（火）9時30分～
◇申 込 先：横浜市中央図書館
※詳細は、横浜市中央図書館HPをご覧ください。

### event 2

○第12回地域歴史散策

**栄区内の古道を歩く４**

栄区内には鎌倉道をはじめ、古道がいくつも走っていました。今回は、笠間町から戸塚駅まで、鎌倉中道を中心とした道を実際に歩き、歴史を学びます。

◇日時：平成30年11月24日（土）　9時30分～16時30分
◇集合：笠間十字路バス停脇コンビニ前
◇対象：中学生以上（健脚向きです）
◇人数：25人（応募者多数時は抽選となります）
◇費用：500円（資料・保険代）　※弁当持参
◇申込：FAXか往復はがきに行事名「地域歴史散策12」・住所・氏名（ふりがな）・連絡先（FAXの場合はFAX番号も記入）・申込人数・「埋文よこはま」38を見た旨を記載し、埋蔵文化財センターへ
◇募集期間：平成30年10月15日（月）～11月15日（木）必着

### event 3

○講座　平成30年度「横浜の考古学」

**金沢区の重要遺跡**

本年度は金沢区が区制70周年を迎え、金沢公会堂のこけら落としを記念して、区内の主要な遺跡について講演会を開催します。

**日時：平成31年２月８日（金）10：00～15：00**

1．野島貝塚・青ヶ台貝塚・称名寺貝塚(縄文時代)
2．瀬戸神社旧境内地内遺跡(古墳時代)・上行寺東やぐら群遺跡(中世)
3．称名寺庭園苑池(中世)・(仮称)八景西公園遺跡(近世)

◇会場：金沢公会堂　講堂
◇募集：200名
◇費用：1,000円（資料代）
◇申込：詳しい募集方法等は後日、埋文HP・広報よこはま等にて掲載します。

**体験イベント**
講演会に関連して下記の体験教室と歴史散策を予定しております。

「みて！ふれて！わかる！！金沢区の土器と漁ろう具」
区内の遺跡から出土した縄文土器と骨角器を間近で見て、実際に触れてもらう体験教室を開催します。
◇日程：平成31年2月20日(水)・23日(土)
◇会場：金沢区役所会議室（20日）・能見台地区センター（23日）
※詳しい内容・募集方法等は後日、埋文HP・広報よこはま等にて掲載します。

「金沢区の遺跡を歩く」
実際に発掘された調査地を散策し、遺跡の環境とその歴史的な背景について解説します。
◇日程：平成31年2月24日(日)
※詳しい散策ルート・募集方法等は後日、埋文HP・広報紙等にて掲載します。

### 編集後記

今回のテーマは「やぐら」です。やぐらというのは鎌倉を中心とした地域に多く分布する中世のお墓です。鎌倉を取り巻く周囲の山を歩いたことのある人なら、きっと目にしたことがある、四角い掘り込みです。山歩きのシーズン、やぐらをご存じだった方もそうでない方も、本紙を読んで、より一層横浜の魅力的な文化財に興味をもっていただければ幸いです。
また、これらの文化財をめぐる際に、皆さんにお願いがあります。多くの方にみていただき興味を持っていただきたいと思う反面、場所を明示することでそこに人が立ち入り、壊されてしまうこともおこります。また、なかには私有地にあるやぐらもありますので、十分注意し、理解していただけるとありがたいです。保存管理されているやぐらもありますので、文化の秋、一味違った散策を楽しんでいただけたらと思います。

編集N

### ≪埋蔵文化財センターのご案内≫

ＪＲ線「港南台」駅
２番バス乗り場より「上郷ネオポリス」行きまたは「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩１分
京浜急行線「金沢八景」駅
国道沿い１番乗り場より「上郷ネオポリス」行き、終点「上郷ネオポリス」下車　徒歩１分
または「大船駅」行き、「長倉町」下車徒歩７分
ＪＲ線「大船」駅
３番乗り場より「「金沢八景駅」行き、「長倉町」下車徒歩７分

・見学等の施設利用は、平日の９～17時となっています。
・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。


**埋文よこはま３８**

発　行　日　2018年９月30日
編集・発行　公益財団法人　横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
〒247-0024　横浜市栄区野七里2-3-1
TEL.　045-890-1155
FAX.　045-891-1551
印　　刷　株式会社ナデック




「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

# 埋文よこはま

Archaeological research institution of Yokohama

## ― 横浜のやぐら ―

38

### 上行寺裏遺跡のやぐら

(左上)金沢区六浦二丁目所在やぐら
(右上)金沢区瀬戸21番地やぐら群1号やぐら
(下)金沢八景御伊勢山・権現山の樹叢
（横浜市指定文化財　天然記念物　平成19年指定）
写真提供：横浜市教育委員会

御伊勢山・権現山周辺のやぐらを上行寺裏遺跡としてまとめています。

マンガ付 P8～P11

「やぐら」とは、中世に鎌倉を中心とした崖などに掘り込んで造られるお墓の一形態です。鎌倉時代中期から室町時代の前半にかけて盛んに造られ、鎌倉とその周辺地に限定してみられる特徴的な墳墓です。関東では、鎌倉市、横浜市、藤沢市、逗子市、横須賀市、また房総半島等にも分布します。横浜市内では鎌倉に近い金沢区、栄区などの南部域に多くみられ、特に鎌倉の外港として機能した六浦の周辺に数多くのやぐらが分布します。

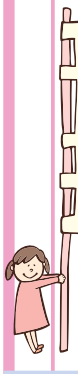
平成27年、28年に六浦周辺のやぐらの調査が２件行われました。六浦2丁目やぐらは「岩沢家・長沢家やぐら群」と呼ばれるやぐら群の一つで、御伊勢山（おいせやま）・権現山（ごんげんやま）の丘陵の崖裾にみられるやぐらです。狭い尾根の東西に開口部をもつ2基のやぐらが落盤によって奥壁部が落ちてトンネルのようになっています。後世に大きく改変を受け、駒繋（こまつな）ぎの穴もみられることから、近年では馬小屋として利用されていたとみられますが、本来の規模は奥壁幅6.8m、高さ約2.5m、奥行3.0mと長方形の大型のやぐらであったようです。同丘陵の北側の崖裾に瀬戸21番地やぐら群があります。このうちの１基のやぐらの調査が行われ、開口部幅3.4m、奥壁幅6.4m、高さ2.9m、底面奥行3.4m、天井奥行4.5mと大型のやぐらが検出されています。今回は横浜市内のやぐらを中心に紹介します。

## やぐらとは？

やぐらとは墓の一種ですが、骨を納める場としてだけでなく、仏堂と納骨所を兼ねたものです。室内装飾や彫刻など、仏堂的な痕跡がみられたり、寺院の塔頭（たっちゅう）※1域に多く群集することなどから、寺院施設との関わりが強い施設であったと考えられています。

やぐらの分布は鎌倉を中心とした地域ですが、同様のものは東北や北陸、北部九州などにもみられます。近年では、大陸文化の影響、特に13世紀中頃以降を中心とする中国の南宋仏教文化の影響により、鎌倉の寺院にやぐらが発生し、その後、各寺院の法系にのって各地に展開したと考えられています。

鎌倉幕府滅亡後に、やぐらの質的変化がおこることが指摘されているものの、その後もやぐらは使用され続けますが、15世紀代には鎌倉の中世都市としての衰退や寺院の衰退により、貯蔵施設や塵芥（じんかい）穴となるものも多くみられます。




## 中世のお墓ってどんな？

中世では土葬と火葬の葬法がみられますが、風葬に関しては考古学的な検証は困難で、詳しくはわかりません。こうした埋葬方法の違いは階層差や地域差など様々です。

鎌倉では、「やぐら」以外にも下層の人々の墓とみられる大量の人骨が由比ヶ浜一帯の浜地などからみつかっています。また、横浜市内では、火葬址が港北区上の山（うえのやま）遺跡や鶴見区寺尾城址（てらおじょうし）などからみつかっています。なかには「T」字形をしたものなど、壁面が赤く焼けた土坑がみつかり、これらは火葬を行った跡とみられています。荼毘（だび）に付された後は、拾骨（しゅうこつ）を行い、蔵骨器に納め埋葬したものが火葬墓の一般的な形態です。土葬は木棺や甕棺（かめかん）などの棺を使用して埋葬される場合もありますが、横浜市内からはみつかっておらず、多くが土坑墓と呼ばれる 1mほどのもので、屈葬の形態を想定しています。

## やぐらへの納骨

金沢区六浦大道（むつうらだいどう）やぐら群の 1 号やぐらの奥壁寄りから 37 体分の非焼骨（非火葬骨）がみつかっています。これらの骨は一度別の場所に埋葬後、二次葬としてやぐら内に入れられたと思われます。

やぐらに納骨する場合、一人の骨だけを納めるということはほぼなく、通常は合葬墓です。やぐら内の床面中央部に大きな納骨穴が一つあり、そこに纏（まと）まって入れられたり、壁際の壇上に幾つかの納骨穴があり、そこにそれぞれの骨を入れる場合があります。また龕（がん）といわれる小部屋を奥壁側に掘り込み、そこに骨を納める場合や、納骨穴は作らず、床面に骨壺を置いたり、ただ、焼骨（火葬骨）をばらまく場合など納骨方法は様々です。

金沢区六浦大道やぐら群の非焼骨はやぐら構築当初のものではなく、それ以後にやぐら内に入れられたものです。13世紀中頃に造営が開始されたやぐらは、造営当初から焼骨（火葬骨）の納骨が行われていました。火葬されていない非焼骨をやぐら内に埋葬・埋置、ないしは散在する行為は15世紀以降に本格化し、近世へと継続されます。

やぐらには、宝篋印塔や五輪塔、板碑などの石塔類が多くみられます。これらは時期によって形態などが少しずつ異なります。

◇宝篋印塔は『宝篋印陀羅尼経』を納入する塔。経の納入に関わらず、この形式の塔を宝篋印塔と呼称する。「関東形式」と「関西形式」がある。源流は中国。

◇五輪塔は空・風・火・水・地の五輪で構成される塔。大日如来の三昧耶形（さんまやぎょう）として造立。日本で石造化。

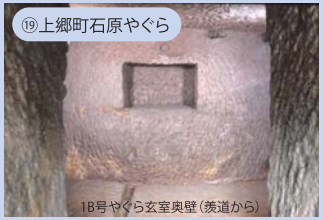
イラスト：諸川摩美

※1　塔禅宗寺院の子院で塔中ともいう。高僧の住房や庵居から発展し、その墓（塔）を守って弟子が相伝した。独立した一寺ではないが、所領を保有して末寺をもち、一派の拠点となって規模も拡大し、実質的には一寺としての発展をみる。

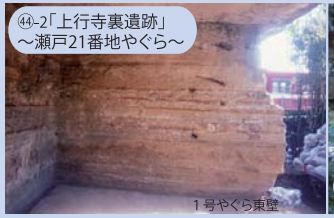
※2　三昧耶形とは密教において仏を表す象徴物のこと。どの仏をどの象徴物で表すかが経典によって予め取り決められ、各仏の持物がそのままその仏を象徴する。持物を持たない如来の場合は特別の象徴物が三昧耶形とされる場合もあり、大日如来は宝塔で表す。

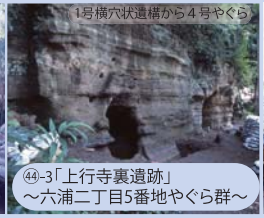
下の写真の番号はP.4-5の「横浜のやぐらMAP」の番号です

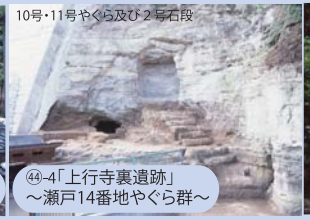
⑲㉜㉟㊵㊹-3～5㊺㊻㊿写真提供：神奈川県教育委員会



やぐら20選



# 横浜のやぐらMap

横浜市内では鶴見区、中区、磯子区、港南区、栄区、金沢区の51か所からやぐらがみつかっており、その数は350基以上にも及びます。最も多く分布しているのは金沢区で24か所、次いで栄区19か所、港南区4か所、磯子区3か所、中区と鶴見区からは1か所ずつです。金沢区は鎌倉と東京湾を結ぶ交通の要所であり、現在の平潟湾へは六浦道、白山道が通っていました。やぐらはその周辺に多く分布しており、崖裾以外に丘陵山腹にもみられます。特に釜利谷周辺と御伊勢山・権現山周辺に多くみられます。栄区や港南区、磯子区にあるやぐらも同様に、鎌倉街道などの当時の街道沿いに多く分布します。また、規模が大きく崖裾にみられるものが多いのも特徴です。中区や磯子区にみられるやぐらは海岸近くに分布します。

❶～❸までは地図範囲外のため、記していません。

「泥牛庵のやぐら群」（神奈川県立埋蔵文化財センター 1988）に加筆改変

※横浜市内のやぐらのみ記しているため、地図内であっても鎌倉市や横須賀市のやぐらは記していません。
文化財登録が行われていないやぐらの名称に関しては仮称として「　」で記しています。
㉙㉛㊹などのやぐらが密集している地域は、紙面の関係上、谷戸の異なる隣接やぐらを一帯のやぐらとして記載しています。
この地図はカシミールスーパー地形をもとに作成し、当時の海岸線ライン（想定図）を重ねています。
やぐらの中には私有地にあるものも多くあります。訪れる際には注意してください。

1. 八千代田古墳群(A地点)
2. 本牧荒井やぐら
3. 「磯子区№40遺跡」
4. 屏風ヶ浦小学校横穴
5. 「観音やぐら」
6. 安養院やぐら群
7. 「浄願跡やぐら群」
8. 「金井前やぐら」
9. 大神やぐら群
10. 「太子やぐら群」
11. 「宿谷やぐら」
12. 「宮下やぐら」
13. 小菅ヶ谷町新宿やぐら
14. 小菅ヶ谷町新宿遺跡
15. 「涼戸やぐら群」
16. 「押切やぐら群」
17. 深田やぐら
18. 上郷深田遺跡
19. 上郷町石原やぐら
20. 「尾月やぐら」
21. 「白山社跡やぐら」
22. 「宮田やぐら」
23. 「内耕地やぐら」
24. ひこしが谷横穴墓群
25. 「大谷戸やぐら群」
26. 「荒井澤やぐら」
27. 「天台やぐら」
28. 長昌寺前横穴群
29. 「釜利谷市民の森一帯やぐら」
30. 「満蔵院一帯やぐら」
31. 「釜利谷町赤坂・宮ヶ谷一帯のやぐら」
32. 釜利谷赤坂やぐら群
33. 浅間神社やぐら群
34. 宿下遺跡
35. 釜利谷東6丁目西地区やぐら群
36. 坂本元屋敷やぐら群
37. 釜利谷やぐら群
38. 釜利谷やぐら遺跡
39. 「金沢区№43遺跡」
40. 朝比奈やぐら群
41. 「金沢区№42遺跡」
42. 六浦大道やぐら群
43. 光傳寺北やぐら群
44. 上行寺裏遺跡
45. 泥牛庵脇やぐら群
46. 瀬戸町やぐら群
47. 瀬戸神社旧境内遺跡
48. 「瀬戸神社裏やぐら」
49. 六浦北部遺跡
50. 六浦三艘地区やぐら群
51. 瀬ケ崎和田山遺跡

## 六浦周辺のやぐら

金沢区六浦、瀬戸、釜利谷付近は中世において、武蔵国久良岐郡六浦庄であり、鎌倉の外港として栄えたこの地には、鎌倉市中の外側であるにもかかわらず、多くのやぐらが分布します。

### 中世の六浦

中世の初め、六浦庄は有力御家人である和田義盛の支配にありましたが、和田合戦（建暦3年（1213））以後、二代執権北条義時の子実康の所領となりました。それ以後は実時—顕時—貞顕—貞将と金沢北条氏によって相伝されます。

鎌倉に大船が停泊できる港がないことなどから六浦一帯は鎌倉の外港として発展していきます。三浦半島の三浦氏への牽制や房総の千葉氏との連絡路の確保等という役目もありましたが、三浦氏滅亡後は、貿易港等の港湾都市としての本来の機能が強化され、経済や文化面からも重要視されます。

六浦と鎌倉の結ぶ道としては六浦道、白山道があり、朝夷奈切通は六浦道の途中に位置します。白山道は釜利谷と鎌倉を結ぶ道ですが、朝夷奈切通開通以前は盛んに利用されていました。やぐらはこうした古道や平潟湾周辺に多く分布しています。

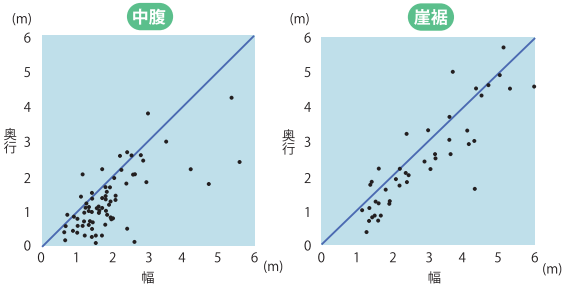
### 上行寺周辺のやぐら群

六浦周辺の代表的なやぐらとして、御伊勢山・権現山の丘陵山麓部に分布するものがあります。特に上行寺周辺に密集し、上行寺東やぐら群からは44基、西隣の上行寺やぐら群からは29基のやぐらが確認されています。また上行寺東やぐらは阿弥陀如来像や五輪塔が刻まれたやぐらの他に、上下2段の平場に掘立柱建物址や礎石建物址、池状施設、井戸址などがやぐらとともに検出され、これらの建物址はやぐらと一体の宗教施設を構成していた可能性が考えられています。この地は瀬戸神社の別当として、源頼朝が建立したといわれる蔵福寺（嘉吉四年（1444）浄願寺と改称）跡に比定されています。

やぐら群の多くは寺院のある場所か、かつて寺院があった場所に立地しており、やぐら群と寺院は密接に関係しており、交通の要所にあった六浦の地において、寺院を中心とした宗教活動や経済活動とのかかわりがあったとみられています。また港を取り囲むように寺院と墓地が形成されたこの地の景観は、供養や信仰を象徴する地としても重要視されていた可能性があります。

イラスト：諸川摩美

## やぐら、くらべてみました




中世研究プロジェクトチーム　2004　「神奈川県内のやぐら集成(2)」『研究紀要9　かながわの考古学』を一部改変

やぐらは山の中腹や頂部などに造られる場合と崖裾などに造られるものがみられます。前者は小規模で群集する場合が多く、後者は規模が大きく、単独や数基で構成される場合が多くみられます。

横浜市内のやぐらは金沢区を除くと、大半が崖裾にみられます。これらは大型で、1基ないし数基で構成されています。

こうした違いについて、丘陵の頂部や中腹にみられる群集するやぐらは墓所や納骨的要素が濃く、平地や谷戸の低地にみられるやぐらは墓所的要素がうすいという意見もあります。

## やぐらの転用

やぐらによく似たものに古墳時代の横穴墓や戦時中に掘られた防空壕などがあります。実際に、やぐらの中には横穴墓を転用し、やぐらとして中世に使用されていたものがしばしばみられます。また、使用されなくなったやぐらは物置や家畜小屋、防空壕などとして、後の時代に利用されているケースもあります。

### 横穴墓とやぐら

横穴墓とは丘陵の山腹や崖面を掘り込み、墓室を造り出したものです。複数基から成り、5世紀代に北部九州で出現し、東日本では古墳時代の後期・終末期に多くみられます。基本的な構造は玄室と羨道、外部施設の前庭部（墓前域）で構成されています。墓であることや、基本構造はやぐらと同じですが、両者には時代的な連続性はありません。また、やぐらの天井は平らで、玄室の平面形状（上から見た形）は方形や長方形などが大半ですが、横穴墓は、天井部分がドーム形やアーチ形をし、玄室の平面形状が台形や撥型をした、やぐらとは異なる形態のものが多くみられます。このような相違点が見られる両者ですが、面白いことにやぐらのなかには横穴墓を造り変え、中世にやぐらとして使用した例が市内のやぐらの1割～2割にみられます。これらの多くは丘陵の中腹に位置します。

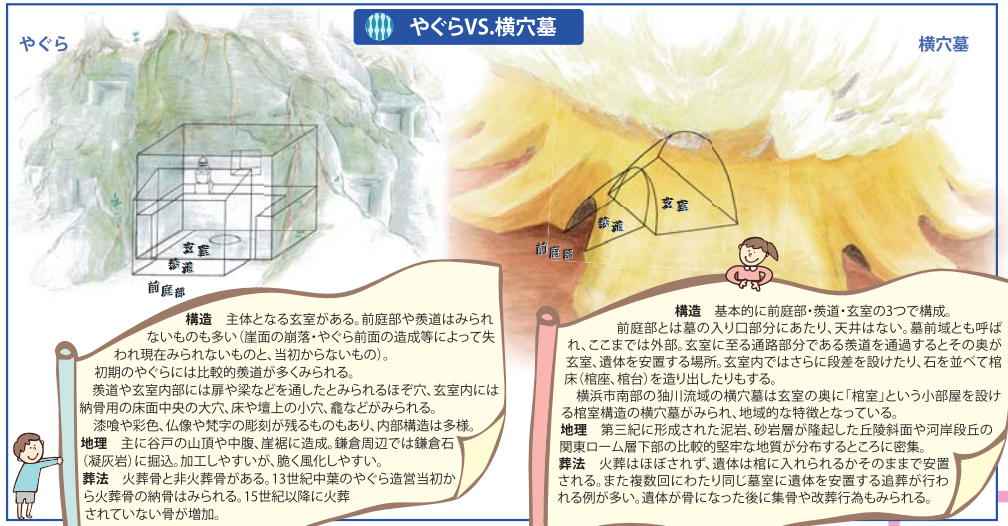
### 防空壕とやぐら

やぐらは後世にさまざまな形で利用されますが、特に多いのが、第2次世界大戦中に防空壕として転用されている例です。横浜市内でやぐらが多く分布する金沢区や栄区は横須賀に近いという立地もあり、崖面にもともと穿たれていたやぐらの壁を刳り貫いたりして、防空壕として人々が戦火から逃れるため、あるいは戦火にあった家が再建されるまでにやぐら内に家財道具を持ち込んだ例がみられます。また、釜利谷郷の小泉に鎮座する手子神社脇のやぐらは、神社の御神宝を戦火から守るためにも使用されたようです。

大正時代では、関東大震災の際に倒壊した家屋の瓦礫を収める場所としてもやぐらは使用されます。こうした塵芥置き場としてやぐらが使用されている例も多くみられます。

横浜市内のやぐらは、金沢区を除き、多くが崖裾の民家の裏手にみられる場合が多いため、やぐら本来の使用目的を放棄した以後は、様々なことに利用されていたようです。

### やぐらVS.横穴墓




やぐら・横穴墓イラスト：諸川摩美

# 岩窟家のやぐら

絵 諸り摩美

～いわくら家 人物紹介～

じいじ　しっかり者だけどばあばがこわい

ばあば　いわくら家の主(ぬし)

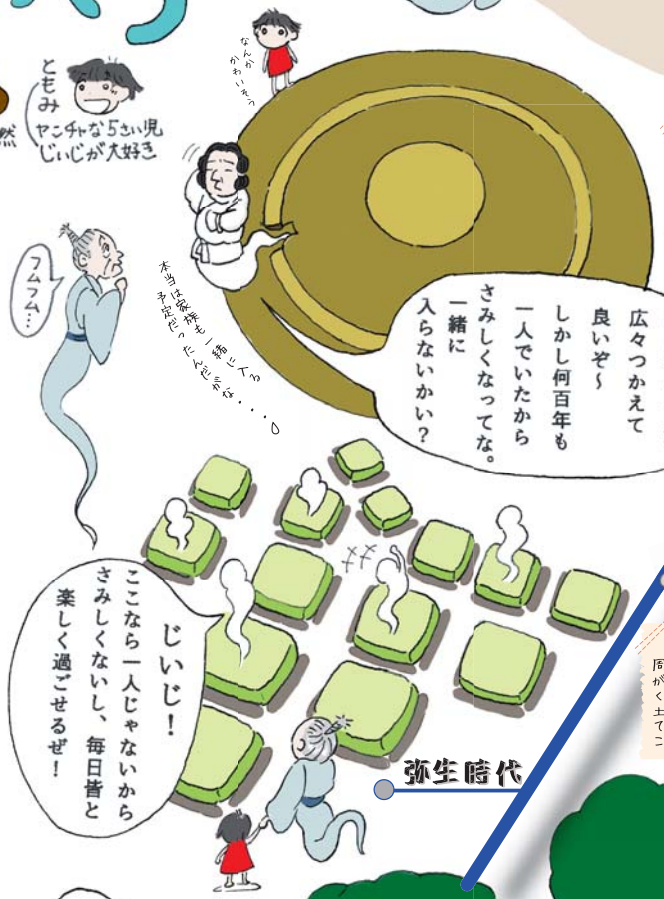
ママ　ちょっと天然

ともみ　ヤンチャな5さい児 じいじが大好き

## 縄文時代

広場を囲うように穴を掘ったお墓（土坑墓）がつくられました。

## 弥生時代




円墳

豪族が権力を示すために作ったお墓。古墳時代、前方後円墳、方形周溝墓などの形式があります。

## 古墳時代




方形周溝墓

周囲を溝で囲った方形のお墓域をつくっていました。溝を掘った土を内側に盛って台状にして、中央部分に穴を掘ってそこに埋葬しました。

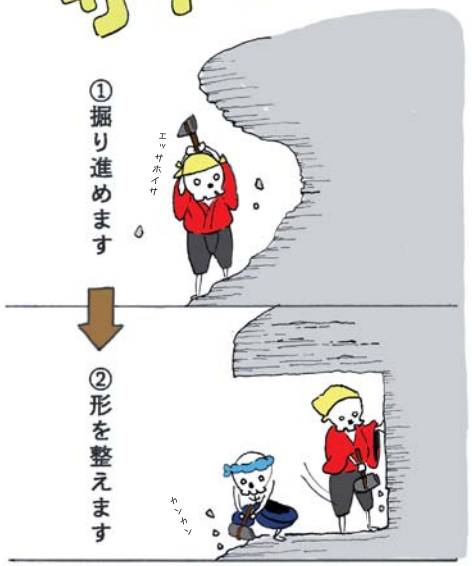
## 中世

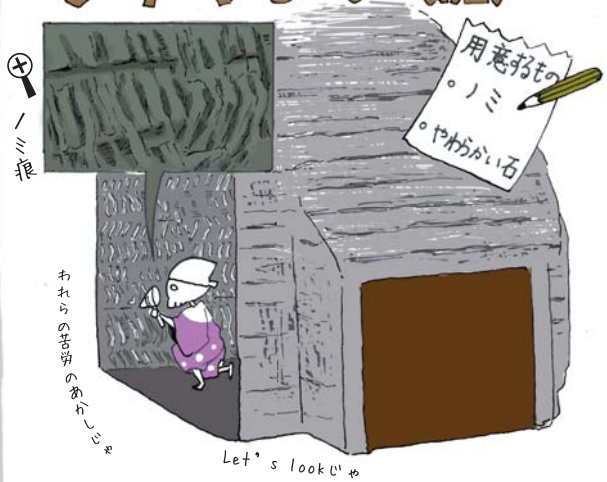
### 中世のお墓

中世の鎌倉をはじめとする都市的な場では、都市周辺部に墓地形成がなされたと考えられています。「やぐら」は鎌倉周辺の山々に多く分布し、浜地には土坑墓が多くみられます。文献上では中世の鎌倉の「浜」は西浜と前浜（あるいは由比ヶ浜）がみえ、その範囲は現在の鎌倉女学院近辺が滑川の河口域にあたり、湿地や氾濫原を挟むようにして東に西浜（材木座光明寺近辺）、西に前浜（由比ヶ浜）と、現在よりかなり広範囲であったと考えられています。

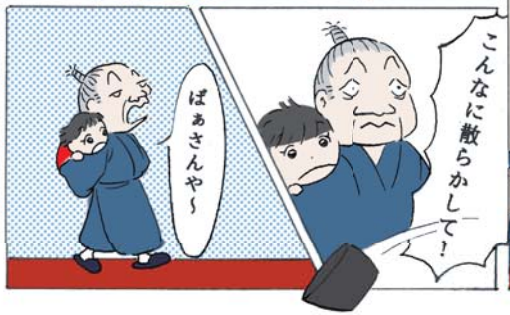
由比ヶ浜中世集団墓地遺跡はそのような浜地にある遺跡で、単独の土坑墓以外にも、数体から数十体の骨をまとめて穴に入れた「集積骨」もみられます。集積骨の中には頭蓋骨のみが数百個体入れられた土坑墓もあります。こうした浜地で見つかる人骨は下層階級であったり、頭蓋骨のみの集積骨のように、戦乱後の首実検の結果と思われるものもみられます。また、鎌倉七口の外の場所に「捨て墓」的な空間を考える人もおり、中世の人々はやぐら以外にも様々な場所へ葬られたとみられます。

# ガイコツと学ぶ3分やぐらディギング(掘)




鎌倉周辺のやぐらは「鎌倉石」とも呼ばれる凝灰岩に掘り込まれます。この岩石は加工しやすい分、脆く風化しやすいため、崖面の崩落などにより当時の姿をとどめていないものが大半です。現在私たちが目にするやぐらは、前庭部や羨道、玄室の前面部分がみられないものがほとんどです。

しかし中には、壁面に塗られた漆喰が残っていたり、「朱垂木やぐら群」の一基には天井に梁を彩色によって表現したものがみられます。また、壁に五輪塔や宝篋印塔などの塔の彫刻を施したものや、金で梵字が描かれたりなど、本来のやぐらは非常に美しいものであったと思われます。そこには中世の人々の宗教観を表した世界がデザインされていました。

また羨道や玄室の壁、天井、床などには、対になるような四角い穴が掘られていることも多く、柱や梁、扉などの内部構造があった可能性を示しています。